



創立151年

わにっこり

教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子

和邇小だより 令和6年 冬休み号

児童数384名 文責 澤村幸夫



和邇小学校の北校舎3階から臨む景色は、季節の変化が感じられ、私たちを心豊かにしてくれます。(右の写真)比良山系の山々が積雪で白くなり、和邇の街も冬の便りが続々と届いています。早いもので、今年もあとわずかとなりました。保護者の皆様や地域の皆様には、日常の学校運営に多大なるご支援・ご協力をいただきありがとうございました。

さて、1年で昼の長さが最も短くなるのが冬至です。今年は12月21日でした。冬至は昼の長さが最も短くなるだけでなく、太陽の光の角度が地上に対して最も低くなります。したがって、太陽から受けるエネルギーも最も少なく、日本では夏の25%程度にまで減少します。

光の量と関係する体内時計が、光によって1日の時刻を知り、体のリズムを整えてくれます。午前中の明るい光が網膜を刺激し、脳にある体内時計に作用しますが、日の出が遅くなる冬は、体内時計が遅れて何となく憂うつな気分になります。朝起きが辛く感じるのも、こういった理由からです。

一方、夜の明るい光は体内時計をさらに遅らせることとなります。この20年間、日本人の生活は明らかに夜型になってきています。その原因の一つが夜の明るすぎる光とそれによる体内時計の遅れだと言われています。そのため、不眠と昼間の眠気を訴える若者が増えています。宇宙から見た地球で、夜に最も輝いて見えるのは東京であるといわれますが、これはエネルギーの浪費と温室効果ガスの放出、さらに、私たちにとって大切な睡眠にも大きな悪影響を及ぼしていると思います。私たちは今一度立ち止まって地球規模でこの問題を考える必要があると思います。

一方、夜の明るい光は体内時計をさらに遅らせることとなります。この20年間、日本人の生活は明らかに夜型になってきています。その原因の一つが夜の明るすぎる光とそれによる体内時計の遅れだと言われています。そのため、不眠と昼間の眠気を訴える若者が増えています。宇宙から見た地球で、夜に最も輝いて見えるのは東京であるといわれますが、これはエネルギーの浪費と温室効果ガスの放出、さらに、私たちにとって大切な睡眠にも大きな悪影響を及ぼしていると思います。私たちは今一度立ち止まって地球規模でこの問題を考える必要があると思います。

川本真さん講演会とロケット教室



487日かけて、ヨットで世界一周を成し遂げた川本真さんに来校いただき、4~6年生に60分のお話、1~3年生に40分のお話をいただきました。小さい頃からの夢をあきらめずに、希望を持ち続ける川本真さんのお話に感動と勇気を与えてもらいました。夢を現実のものとするには、準備期間がいること、支えてくれる多くの仲間がいること、そして何より、失敗を恐れず、何事にもチャレンジしていかうとする気持ちが大事であることを分かりやすく教えてもらいました。



その後、卒業を迎える6年生は、本物のロケットを自分の手で作り、全校児童が見守る中、69機のロケットを大空に打ち上げることができました。自分のロケットだけ飛ばないかもしれない、という不安を持ちつつ、空高く打ち上がるロケットを体験することで、失敗を恐れず、小さな成功体験を積み上げることの大切さに気がきました。ダイジェスト版として動画にまとめましたので、ご覧ください。

講演会・ロケット教室

紙面配布のみ表示



期間限定 12/23~1/31

琵琶湖博物館

わにっこりの誕生日を祝う会

13歳のお誕生日おめでとう

3年生は12月6日（金）、好天に恵まれ、琵琶湖博物館に校外学習に出かけました。

博物館の人からは、琵琶湖の名前の由来や地域によって昔の暮らしに違いがあることなどを教えてもらい、興味津々で話を聞きました。展示室をまわり、これまでから学習を積み上げてきた「昔の暮らし」について学びました。滋賀県の大昔からの生活には、新たな発見が多くありました。短い動画にまとめましたので、ご視聴ください。

和邇小学校には、マスコットキャラクター「わにっこり」がいますが、思いのほか世間では知られていないことが分かり、子どもたちから、「わにっこり」を広めたいという願いのもと、学校夢づくりプロジェクトの地域連携事業に取り組みました。和邇商店街とコラボした多くの取組の集大成として、児童会で企画・立案し「わにっこりの13歳の誕生日を祝う会」を開催しました。この集会は6年生が役割分担をして臨みました。誕生日ケーキを作り、プレゼントを用意し、みんなが楽しめるようにO×クイズを取り入れました。13年前に私たちの先輩が創作した「わにっこり」はこれからも、子どもたちや地域に愛される存在として、大切にしていきたいと思えます。

3年 琵琶湖博物館

紙面配布のみ表示



期間限定 12/23~1/31



心温まる家族のふれあいをうまく標語にまとめました。

家族ふれ愛 標語 入賞作品

あさおきて みんなにここに
おはようさん
1年 大江 那由乃

3きょうだい なかよくあそぶ
いえプール
1年 古妻 優奈

おいしいね みんなですする
おそうめん
2年 築山 陽緋希

あついでねるときはやっぱり
くっついちゃう
2年 中野 陽和

たのしいな かぞくみんなで
バトミントン
3年 秋山 偉月

おはようと はじまる1日
気持ちがいい
3年 櫻井 紅駕

ねる前に あのねと話す
いつもの時間
4年 長瀬 結愛

家の中 笑顔あふれる
父の変顔
4年 足高 あさひ

お手伝い 親孝行の
たまごやき
5年 広瀬 きなり

あたたかい おかえりなさいは
ほっとする
5年 溝 陽良

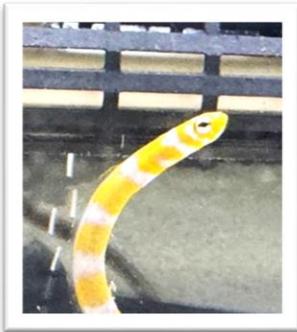
あいさつは みんなの笑顔の
たねになる
6年 佐向 見優

あいさつは 心を通わず
第一歩
6年 足立 心菜

すえっこの おふろはみんな
ながれさぎょう
6年 永原 明莉

シリーズ 「未来への扉」 第10弾 「からだの脳とこころの脳」

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれからの時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ情報を掲載したいと考えています。子どもは「地域の宝」です。未来をたくましく生きる子どもたちにつけてほしい本当の力とはいったい何か、子どもが生涯にわたり幸せに生きていくには、周囲の大人はどんな関わりを大切にしていけば良いのか、共に考えていきたいと思えます。



学校のニシキアナゴ
本文との関連はありません。

第10弾は「からだの脳とこころの脳」についてです。オーストラリアが先月、16歳未満の子どもたちによる SNS (ソーシャルメディアネットワーキングサービス) の利用を禁止する法案を可決し、世界でも注目を浴びています。「私たちは子どもたちに子ども時代を過ごしてほしい」とアルバニー首相は記者団に語っています。この改革に関する世論調査では、オーストラリアの親や保護者の大多数が規制を支持しているようです。フランスでは昨年、親の同意なしにソーシャルメディアにアクセスすることを禁止する法律が導入されました。ノルウェー政府は、オーストラリアに続くことを確認しているようです。SNS 利用が若者に与える影響を、各国では脳科学の専門家も交えて論議されています。その規制を法律で定め、運営企業に罰則を与えるというスタイルです。一方、日本において

は、依然としてスマホ等の機器を買い与える保護者の責務として位置付けているようです。SNS トラブルの責任は保護者にあります。つまり、我が子をトラブルから守ることができるのは、保護者しかないということです。

脳には、年齢とともに発達する時期があります。5歳までの子どもは、まさに「からだの脳」を育てる時期で、乳幼児期のあらゆる経験がその後の成長に大きく関わってきます。5歳までの子どもには、自分で自分をコントロールすることはできません。スマホの操作は簡単で、いったん操作を覚えてしまうと「もっとやりたい」ということになるので、持たせることは避けなければなりません。外出中に子どもにスマホを渡している親子を見かけます。おとなしくさせておきたい理由は分かりますが、いかがなものでしょうか。コロナ禍で外出ができない乳幼児期を過ごした子どもたちに対して「スマホ育児」という言葉まで聞かれました。その子どもたちが今、小学生になっています。子どもは五感からの刺激が一番大事です。園での生活はもとより、家での生活やお出かけしている時の子どもは、五感からいろいろな刺激を受けています。その大切な機会をスマホ等に奪われてしまったら脳が育たないのではないかと心配します。



学校のギンガハゼ
本文との関連はありません。

小学校に入って以降は、学校でも一人一台タブレットの時代ですから、電子媒体なしで過ごすことは難しいと思います。それでも低学年では、まだまだ自分で自分をコントロールすることができませんので、個人でスマホを持たせることは推奨しません。安全のための位置情報や緊急連絡のためにキッズスマホを持たせることは工夫できると思います。しかし、いろいろな情報にアクセスできるような機能は必要ありません。学校においても、メディア・リテラシーの学習は学年の状況に応じて進めています。

個人差はありますが、高学年以降の年齢になると「こころの脳」つまり前頭葉が育ってきます。「よりよく生きたい」という気持ちが高まる時期です。そこで、親は子どもを信頼しながら少しずつ自力でメディアとの接触をコントロールできるように導いていかなければなりません。1日何時間とか、何時から何時までは使える時間にするというルールを親子でじっくり話し合っ決めていきます。約束が守れなかった時がチャンスです。トライアンドエラーを繰り返す中で、

子ども自身が考えていけるように促していきます。

今の子どもは睡眠リズムを乱す要因にスマホがあるという指摘があります。「寝る時刻と起きる時刻だけは絶対守る」というルールを徹底することです。子どもたちにとって楽しい冬休みに入ります。豊かな時間が流れますように願っております。



和邇小学校の
ホームページ

学校だより「わにっこり」のカラー版は、和邇小学校の
ホームページから「学校便り」をクリックしてください。